

津久見市立小中学校適正規模、適正配置等についての基本方針

このことについて、津久見市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、津久見市立学校適正配置・学校給食検討委員会の提言書（以下「提言書」という。）及び津久見市立小中学校適正配置専門委員会の調査研究報告書（以下「報告書」という。）に沿って、基本方針をまとめました。

最初に

児童・生徒の健全な育成を図るためには、学校教育の充実が最重点の施策であり、なかでも、施設設備の充実、指導体制の充実等による、より良い教育環境づくりを推進することが必要です。

教育委員会は、提言書及び報告書の趣旨を尊重し、本市のおかれている現状を認識した上で、既存の施設使用を基本として、適正規模・適正配置等を考えていくことを観点に検討します。

1 適正規模について

適正規模については、「子どもにとっての教育の一層の充実を図る。全市的立場からの教育環境の整備を図る。教育予算の効率的な運用を図る。」という考えを柱に検討し、適正規模の目標を次のようにします。

- **小学校一少なくとも、各学年複式学級編制にならない規模であること。**
- **中学校一少なくとも、各専門教科教員が1名以上配置できる規模であること。**

2 適正配置について

適正規模の目標を踏まえ、位置、通学距離や時間などを勘案し、市内の小中学校のうち、日代中学校、日代小学校、久保泊小学校、四浦東中学校、越智小学校に対し、各学校ごとに下記のとおり適正配置の方針を定めます。統合反対の意見はなく統合の意思は明確ですが、児童生徒や保護者、地域住民の心情等に十分配慮して進めるようにします。

ア 日代中学校を第一中学校に統合します。

教育委員会の当初案では、網代・荒代トンネルは平成15年に開通済で、平成18年度頃第一中学校に統合を予定していたところです。

しかしながら、提言書に「千怒日見トンネルが開通した折に、第一中学校に統合することについては、地元関係者の同意が得られていると伺っています。したがって、『どの年度から統合するか』が今後の最大の課題であると思います。当該地域の関係者と十分に協議して進めて欲しいと思います。」とあり、平成19年4月、平成20年4月、平成21年4月、平成22年4月のうち、地元関係者の同意を得て、できるだけ早い時期に統合とします。

イ 日代小学校を千怒小学校に統合します。

教育委員会の当初案では、網代・荒代トンネルは平成15年に開通済で、平成19年度頃千怒小学校に統合を予定していたところです。

しかしながら、提言書に「千怒日見トンネルが開通した折に、千怒小学校に統合することについては、地元関係者の同意が得られていると伺っています。したがって、『どの年度から統合するか』が今後の最大の課題であると思います。当該地域の関係者と十分に協議して進めて欲しいと思います。」とあり、平成19年4月、平成20年4月、平成21年4月、平成22年4月のうち、地元関係者の同意を得て、できるだけ早い時期に統合とします。

ウ 久保泊小学校を千怒小学校に統合します。

教育委員会の当初案では、鳩浦・久保泊トンネル開通後の平成20年度頃千怒小学校に統合を予定していたところです。

しかしながら、提言書に「地域のPTA関係者から、千怒小学校へ通学することの了解ができていると伺っています。したがって、条件整備を急ぎ、千怒小学校に統合するのが良いという気運であります。当該地域の関係者と十分に協議して進めて欲しいと思います。」とあり、平成18年4月を当面の目標に統合とします。

エ 四浦東中学校の久保泊小学校区の中学生については第一中学校に統合します。

教育委員会の当初案では、鳩浦・久保泊トンネル開通後の平成20年度頃第一中学校に統合を予定していたところです。

しかしながら、提言書に「久保泊小学校区の中学生については、当面、久保泊小学校の動きに準じて、第一中学校に統合するのがよいと思われますが、当該地域の関係者と十分に協議して進めて欲しいと思います。」とあり、平成18年4月を当面の目標とする久保泊小学校の動きに準じて統合とします。

オ 四浦東中学校の越智小学校区の中学生については越智小学校の場所に小中学校を併置して統合します。

教育委員会の当初案では、千怒・彦の内トンネル開通後の平成21年度頃第一中学校に統合を予定していたところです。

しかしながら、提言書に「越智小学校区の中学生については、日見千怒トンネル開通までの通学距離や専門教科教員配置などを勘案して、新しい学校づくりの観点から『越智小学校の場所に小中学校を併置して、小中併設校として、早急に再出発するのがよい』とする案が、専門委員会での、かなりウエートのおかれた考え方であることを特記し、今後十分に審議して欲しいと願っています。その際、四浦幼稚園も越智小学校に統合することが望まれます。」とあり、平成18年4月を当面の目標に越智小学校に統合とします。

カ 越智小学校は、極小規模校であるが千怒小学校には当面統合しないものとします。ただし、四浦東中学校、四浦幼稚園と併設します。

教育委員会の当初案では、日見・千怒トンネル開通後の平成22年度頃千怒小学校に統合を予定していたところです。

しかしながら、提言書に「今後、建設予定のトンネルが全て開通した時点においても、深良津から落の浦に至るアップダウンの厳しい道路状況は解消されず、小学校低学年の児童が、越智小学校区から千怒小学校に通学するのは、児童の発達段階や通学距離・時間などを考慮すれば過酷であると判断し、越智小学校は極小規模校であるが、千怒小学校には当面統合しない。」とあり、当面統合しないものとします。

ただし、前記「オ」から、四浦東中学校の越智小学校区の中学生については、越智小学校の場所に小中学校を併置し、四浦幼稚園も越智小学校の場所に併置します。これにより、四浦幼稚園、越智小学校、

四浦東中学校の併設とします。平成18年4月を当面の目標に四浦東中学校と統合とします。

3 統合計画について

提言書及び報告書にも示されていますが、統合に伴い、学校名や児童生徒の学習、生活環境が変わろうとする時、児童生徒や関係者の心情等に十分配慮して、両校の保護者、地域住民、学校関係者及び教育委員会事務局員等によって、統合に関する運営手順、両校交流、記念式典などについても詳細に協議する場を持ち、統合を円滑に進めるようにします。

統合後のアフターケアについて、相談員の配置などを検討します。学校近辺の民家（平日在宅者宅）に依頼して家庭的相談所を設置し、遠距離通学者の安全対策と、着替えのためのシャワー、トイレなどの確保についても検討します。

4 統合協議会について

以上のことから、各学校の統合課題ごとに、平成17年度から「統合協議会」を全て設置して統合を進めます。

ア 日代中学校と第一中学校の統合協議会

イ 日代小学校と千怒小学校の統合協議会

ウ 久保泊小学校と千怒小学校の統合協議会

エ 四浦東中学校の久保泊小学校区と第一中学校の統合協議会

オ 四浦東中学校の越智小学校区と越智小学校と四浦幼稚園の統合協議会

津久見市立小・中学校 学校統廃合の推移（H17～R7）

小学校	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
堅徳小	103	112	110	110	101	100	86	79	77	74	77	82	83	79	78	82	71	63	55	49	46
青江小	279	275	249	223	207	205	196	196	191	203	190	167	169	169	154	134	135	141	134	120	125
津久見小	505	488	488	424	419	391	356	357	357	341	317	279	286	286	262	260	245	241	227	205	209
千怒小	139	146	135	161	163	166	160	167	174	178	166	170	173	162	166	161	159	152	136	123	100
久保泊小	8	休校			廃校																
日代小	26	22	21	休校																	廃校
越智小	10	9	6	5	5	3	3	2	2	休校											
保戸島小	33	28	31	26	23	21	19	13	12	11	4	3	1	1	2	3	1	2	1	2	2
無垢島小	5	5	5	4	3	3	3	休校													
計	1108	1085	1045	953	921	889	823	814	813	807	754	701	712	697	662	640	611	599	553	499	482

中学校	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
津久見中																			新設	322	313
第二中	201	324	178	172	191	175	175	172	170	147	132	137	126	125	114	127	120	111	108	廃校	
第一中	332	118	339	331	342	310	322	291	276	237	251	267	265	254	235	236	206	196	194	廃校	
日代中	23	7	5	休校																	廃校
四浦東中	9	8	10	7	7	6	5	4	1	休校											
保戸島中	15	12	9	13	7	10	8	10	7	11	7	7	4		休校		1	1	2	1	2
無垢島中	1	2	3	3	4	3	2	1	休校												
計	581	471	544	526	551	504	512	478	454	395	390	411	395	379	349	363	327	308	304	323	315

津久見市内小学校新入生調べ

令和7年5月21日現在

資料3

	R8(6才)				R9(5才)				R10(4才)				R11(3才)				R12(2才)				R13(1才)			
堅徳	男	8	女	4	男	3	女	6	男	2	女	4	男	3	女	2	男	4	女	3	男	4	女	4
	計	12			計	9			計	6			計	5			計	7			計	8		
青江	男	7	女	5	男	4	女	5	男	8	女	9	男	5	女	6	男	6	女	7	男	10	女	2
	計	12			計	9			計	17			計	11			計	13			計	12		
津久見	男	14	女	10	男	14	女	8	男	7	女	16	男	6	女	9	男	7	女	8	男	4	女	6
	計	24			計	22			計	23			計	15			計	15			計	10		
千怒	男	5	女	6	男	2	女	9	男	6	女	2	男	3	女	3	男	4	女	4	男	5	女	3
	計	11			計	11			計	8			計	6			計	8			計	8		
市全体	計	59			計	51			計	54			計	37			計	43			計	38		

小学校の学級編制について

1 普通学級

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国の標準	3 5	3 5	3 5	3 5	3 5	3 5
県の基準	3 0	3 0	3 5	3 5	3 5	3 5

2 複式学級

国の標準 1 6 人編制。ただし、1年生を含む場合は8人編制とする。

県の基準 1 4 人編制。ただし、1年生を含む複式学級は、解消する。
(2年生を含む「飛び複式学級」の編制が避けられない場合は解消)

全国学力学習状況調査 小学校 ※黄枠は全国値を超えているもの

資料 5

国語

算数

	R3	R4	R5	R6	R7
津久見市	69	66	68	67	67
全国	64.7	65.6	67.2	67.7	66.8
全国値との差	4.3%	0.6%	0.8%	−0.7%	0.2%

	R3	R4	R5	R6	R7
津久見市	73	66	66	63	62
全国	70.2	63.2	62.5	63.4	58.0
全国値との差	2.8%	2.8%	3.5%	−0.3%	4.0%

※津久見市の数値については、文部科学省から少数第1位を四捨五入された数値を提供されているため、国とは異なっています。

観点別

知識・技能

	R3	R4	R5	R6	R7
津久見市	72.5	74.3	69.5	70.1	78.8
全国	68.3	70.5	68.2	69.8	74.5

知識・技能

	R3	R4	R5	R6	R7
津久見市	77.3	70.5	69.2	74.5	71.5
全国	74.1	68.2	67.2	72.8	65.5

思考・判断・表現

	R3	R4	R5	R6	R7
津久見市	65.8	60.1	66.8	64.2	62.6
全国	62.1	62	65.5	66	63.8

思考・判断・表現

	R3	R4	R5	R6	R7
津久見市	68.5	60.1	61.9	48.3	50.2
全国	65.1	56.7	56.5	51.4	48.3

資料 6

本市児童の体力の状況（R3～R7）

1. 施策指標の進ちょく状況

施 策 名	学校教育の充実			担当課	学校教育課	
計画内容及び 主 要 な 施 策	健やかな体を育む教育の推進					
施策指標の名称	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度	R 7 目標値
体力・運動能力調査 小学生 全国平均以上の割合	57.3%	53.1%	70.8%	82.3%	74.0%	50% 以上
評 価	A	A	A	A	A	
【説明等】 児童生徒の体力・運動能力等の現状を明らかにし、体育・保健体育授業の工夫・改善のための基礎資料とするとともに、子どもの体力向上に係る施策の成果と課題の検証に活用する。また、児童生徒一人一人が体力・運動能力等に関心をもち、進んで自己の体力や能力に応じた体育的活動を実施するための動機づけとする。						

2. 課題等

○小学生(8種目) 全国平均以上の割合 82.3%(79/96種目)																			
学年	男子	全国平均以上の種目								学年	女子	全国平均以上の種目							
		握力	上体起	体前屈	反復横	Sラン	50m	立ち幅	ボール			握力	上体起	体前屈	反復横	Sラン	50m	立ち幅	ボール
1年生	7種目	○	○	○	○	○		○	○	1年生	8種目	○	○	○	○	○	○	○	
2年生	6種目	○		○	○	○	○		○	2年生	6種目	○		○		○	○	○	
3年生	7種目	○	○	○	○	○	○		○	3年生	7種目	○	○	○	○	○		○	
4年生	7種目	○	○	○	○	○	○		○	4年生	7種目	○		○	○	○	○	○	
5年生	5種目	○		○	○			○	○	5年生	7種目	○	○	○	○	○		○	
6年生	7種目	○	○	○	○	○	○		○	6年生	5種目	○	○		○		○	○	
男子合計 81.3%(39/48種目)										女子合計 83.3%(40/48種目)									
○運動が好きと肯定的に答えた男子が92.7%、女子が88.7%で、高い水準である。(小5) ○経験年数の浅い教員に、体育の授業づくりを伝えていく必要がある。 ○男子は上体起こし、50m走、立ち幅跳び、女子は上体起こし、立ち幅跳びに課題がある。																			

(「令和6年度 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検 報告書」抜粋)

資料 7

令和 5 年度に実施した保護者ニーズ調査結果について

区分	就学前児童保護者	小学生保護者
調査対象者	0 ～ 5 歳児の保護者	小学 1 ～ 3 年生の保護者
調査方法	各認定こども園・小学校での手渡しおよび所属の無い者へは郵送による	
対象者数	2 8 6	2 2 5
有効回答数	2 4 0 （ 8 3 . 9 % ）	2 0 4 （ 9 0 . 7 % ）

上記のように、多くの方々から回答を得たことから大いに今後の施策の参考となるデータと思われる。その中で気になる結果として「このまま津久見市に住み続けたいか」という問いに対して、「住み続けたいが転出を検討」「市外に転出する（予定）」の回答が、就学前児童で「1 9 . 1 %」、小学生で「1 2 . 2 %」という結果が出ている。

その中で、「市外に転出する（予定）」と回答した方の理由について尋ねたところ、就学前では「買い物が不便」「小児科や産科が少なく不安」に次いで「大分市など他市の高校や大学への通学が不便」や「児童数が少なく競争意識に欠ける」・「学習塾などが少ない」など、教育に関する理由が挙げられたところが見受けられた。
また、小学生でも同じような傾向が見られた。

- また、自由意見を求める欄では、
- 津久見高校の特殊性を活かす取り組みの要望や、市内の学習塾や英語塾の充実など教育環境の充実を求める声。
 - 高校生など、市外高校への通学を前提とした通学補助。
 - 医療機関の充実や子育て支援の充実
 - 天候に左右されない、子ども達が集える場所

などが挙げられた。

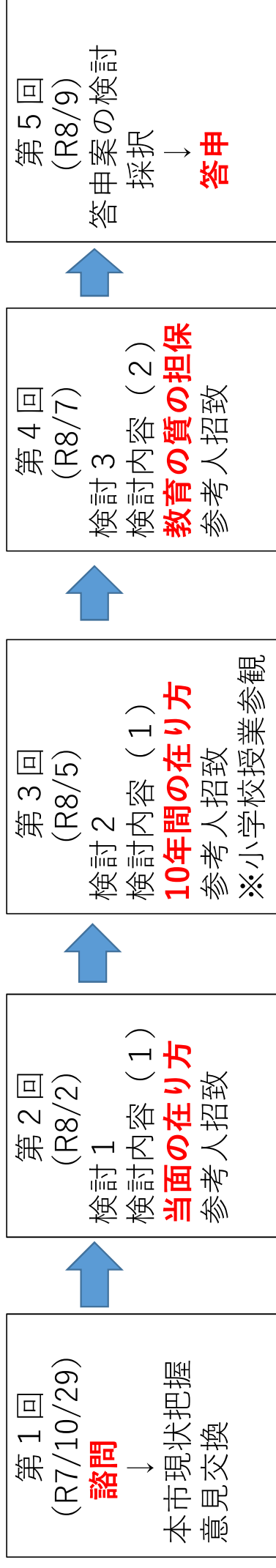
超低出生社会を迎えた津久見市の小学校の在り方検討委員会 作業工程等スケジュール管理

津久見市教育委員会

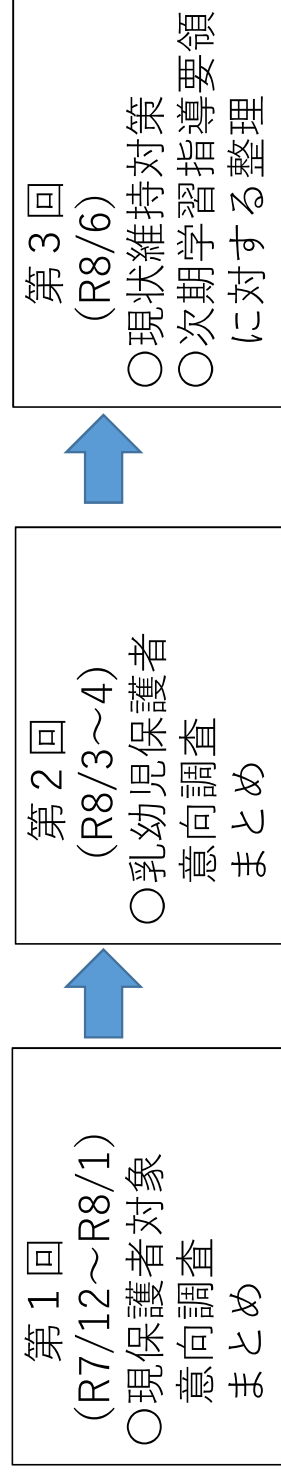
検討内容

- (1) 超低出生社会を迎えた津久見市の今後10年間の小学校の在り方について
- (2) 魅力ある学校づくりや質の高い小学校教育を提供できる環境づくりについて

【検討委員会】



【作業部会】



資料